熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2023.10.30
第 215号
発行 入試・広報課

秋晴れの下 笑顔はじける

杏祭特集

第47回杏祭が20（金）、21日（土）の２日間、アリーナをメイン会場に開かれました。今年のスローガンは「杏るより楽しむがやすし」。本祭にあたる21日のステージは、恒例の最強チーム決定戦で幕を開け、すゑひろがりず、令和ロマンのお笑いライブで最高潮に。歌謡コンテストでは竹屋元裕学長と飯伏義弘教授の「西里ブラザーズ」がおそろいの派手な衣装で登場し、会場を沸かせました。隣接するバザー会場には19の模擬店が出店。２号館では文化展も開催され、会場は終日にぎわいを見せていました。夜になると、900発の花火が打ち上げられ、祭りのフィナーレを飾りました。（NL編集部）

杏祭のフィナーレを飾った打ち上げ花火

会場を沸かせた竹屋学長（右）と飯伏教授の「西里ブラザーズ」

秋晴れの下、大にぎわいを見せた模擬店会場

白熱（？）のバトルが繰り広げられた「最強チーム決定戦」

訪れた人たちにお点前を披露する茶道部員

若さ躍動 興奮のステージ

杏祭特集

約1時間半にわたり圧巻のパフォーマンスを見せたmimicのメンバーたち

前祭見聞記

本祭に先立ち20日に開かれた前祭では、華やかなステージが繰り広げられました。

初めは吹奏楽部による演奏です。ジブリメドレーとすばらしい照明の演出で毎日の勉強に疲れた心が癒やされました。

圧巻だったのはダンスサークルmimic（ミミック）によるダンスパフォーマンス。客席では、出演者の友人や恋人たちが応援うちわやペンライトを手にワクワク顔。いざ、パフォーマンスが始まると、そこはさながら日本武道館です。全員が韓国アイドル顔負けのダンスを披露してくれました。最前列を獲得した私の目には躍動する皆さんが、IVEのウォ〇ョンやTWICEのジ〇ョに見えました。本当ですよ。私も先輩の〝推し〟ができ、しっかりツーショット写真を撮らせて頂きました。

ダンスの次は軽音部の演奏。ライブスタジオさながらの規制線なしで観覧できて、フェスと同じくらい盛り上がっていました。私自身、鼻歌で感じられる程の音痴なので、生歌であれだけ上手い方がいるのはほんとに凄いと感動。約４時間にわたるステージは、興奮のうちに幕を閉じました。（学生広報スタッフ）

写真上は、ジブリメドレーを演奏する吹奏楽部メンバー。同下は、軽音楽部の演奏に盛んな声援を送る観客

杏祭ひと言集

＜ステージで＞

「ダンスパフォーマンスには、同じクラスの子が出たんですが、いつもと違う雰囲気。凄いダンスも見ることができてみんなかっこいいなと思いました」（生活機能療法学専攻1年・福山久友さん）

＜模擬店ブースで＞

「（はし巻きの模擬店を出店）去年より一般の方が来ていて、にぎわっているなと思いました。模擬店は大変だけど、買って食べてくれて『おいしかった』と言われるとすごくうれしいです」（理学療法学専攻2年・内田拓斗さん）

「もともとアクセサリーの販売をしていたので、出店してみました。母と私の手作りもあります。温かい声をかけてくれる人がいてうれしかったです」（看護学科1年・橋本沙紀さん）

＜取材：末田凜、下田埜乃、副島一流（学生広報スタッフNEWSLETTER班）＞

学生６人 堂々の発表

第11回日本運動器理学療法学会学術大会が14（土）、15日（日）、福岡市の福岡国際会議場で開催され、リハビリテーション学科理学療法学専攻の瀬藤璃音さん、椎葉翼さん、牧野優花さん、矢加部未来さんと、保健科学研究科リハビリテーション領域の藤本泰裕さん、八巻魁成さんが本田啓太講師とともに自身の研究テーマに関する発表を行いました。

初めての学会発表に臨んだ学部生と大学院生の様子をみて、本田講師は「それぞれが自身の研究テーマについて堂々と発表してくれた。この経験を活かして、常にリサーチマインドを持ち続けてほしい」と話していました。（入試・広報課）

写真上は、左から学部生の椎葉さん、瀬藤さん、矢加部さん、牧野さん。同下は、大学院生の八巻さん(左)と藤本さん

発表演題と発表者

瀬藤璃音・椎葉翼「健常若年者におけるジャンプ着地動作時の衝撃力と等尺性足関節底屈筋力の関係」

矢加部未来・牧野優花「健常若年者における脊柱のアライメントが動的バランス能力に及ぼす影響」

八巻魁成「腹直筋厚と着地動作時における動的安定性の関係」

藤本泰裕「ステップ長非対称性が著明な人工股関節全置換術後患者における術後2週時点の歩行特徴」

本田啓太「ジャンプ着地動作における大腿及び下腿部の並進加速度に関する女性の特徴」

アカデミックスキル支援センター

レポート

良き出会い創出する努力を

キャリア形成で竹屋学長呼び掛け

医学検査学科の1年次生を前に基調講義をする竹屋学長

「アカデミックスキルⅡ」基調講義

全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」の基調講義が19日（木）、1300L講義室であり、竹屋元裕学長が医学検査学科１年次生を前に「自分自身のキャリアをどうやって見つけるか」と題して講義を行いました。

冒頭、竹屋学長は米国の心理学者E．シャインの「キャリア理論」を紹介しながら、キャリア形成には、①どんな仕事が得意か、②どんな仕事がしたいか、③どんな仕事にやりがいを感じるか、という３つの観点が必要であると説明。同理論に基づき、破傷風の純粋培養や血清療法の確立で知られる北里柴三郎が医学を志すに至った経緯とその後の足跡、基礎医学（病理学）の道を選んだ自身のこれまでの歩みをたどりながら、良き師や共同研究者と出会う努力、ロールモデルを見つけることの大切さなどを説きました。

また、竹屋学長は、臨床検査技師についても「医師の次に病気に詳しい職種」として言及。細胞診、超音波検査、生化学検査、遺伝子・染色体検査の領域などで多岐にわたる認定検査技師の存在を挙げながら「臨床検査技師の資格を取った後のサブスペシャリティとして何を選ぶか、今から考えてほしい」と訴えました。（NL編集部）

研究に貢献…尊い命に感謝し献花　動物慰霊祭

実験や研究のために尊い命を捧げた実験動物を慰霊する動物慰霊祭が18日（水）、動物舎横の動物慰霊碑前で執り行われました。

竹屋元裕学長が「医学医療の研究のため貢献された諸動物の御霊の前に深く頭を垂れ、そのひとつひとつの御霊が安らかに昇天されますことをお祈りし謹んでご冥福をお祈り申し上げます」と慰霊の詞。学生代表の新穂彩花さん（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻２年）が「この動物たちの死が決して無意味になることがないように、私たちはその一つひとつの命を思い、感謝しなければなりません」と述べました。

その後、木下統晴理事長、竹屋学長、動物実験委員長田中聡教授、学生代表の吉田ひなたさん（同）が献花した後、教職員、学生たちも動物たちへの感謝の気持ちも込めて花を捧げ、冥福を祈りました。（入試・広報課）

動物慰霊碑前であいさつする学生代表の新穂さん

銀杏アラカルト

■必由館高の教職員、PTAが来学　必由館高校の教職員とPTA計29人が20日（金）、本学を訪れました。古閑陽一特命副学長が本学の概要について説明。同校卒業生で看護学科４年の友田蘭さんが教壇に立ち、本学を志望した動機や４年間の流れ、大学の特徴、受験対策などについて、自身の経験を交えながら語ると、参加者はしきりにうなずきながら耳を傾けていました。引き続き、一行は図書館エリアとレストランを見学しました。（入試・広報課）

母校の教職員とPTA会員を前に大学生活の様子などを語る友田さん

インフォメーション

週間行事予定（10月31日～11月６日）	
11 / 4（土）	助産別科 推薦入試 大学院 推薦選抜・社会人選抜（Ⅰ期）